

第53回 日本人工関節学会

The 53rd Annual Meeting of the Japanese Society for Replacement Arthroplasty

会場 パシフィコ横浜 ノース

共催：第53回日本人工関節学会 /
マイクロポート・オーソペディックス・ジャパン株式会社

Profemur®



HIP Luncheon Seminar

セミナー
番号

ランチョンセミナー ②1

LS21

日程/
時間

2/18

11:45~
12:45

会場

第10会場
(G414+G415)

座長

中田 活也 先生

独立行政法人 地域医療機能推進機構 大阪病院
院長補佐・整形外科主任部長・人工関節センター長

CSS研究会 代表世話人

演題

Curved-Short Stemの固定性と 低侵襲THA

- Portalを使用したALSアプローチとステム選択 -

Curved-Short Stem stability and minimally invasive THA. -ALS approach with Portal and stem selection-

演者

藤井 英紀 先生

東京慈恵会医科大学 整形外科学講座 准教授

CSS研究会 世話人

演題

ALSアプローチにおける Curved short stemと Path systemを使用したTHAの可能性

演者

赤石 孝一 先生

医療法人 整友会 弘前記念病院 整形外科 診療部長

CSS研究会 世話人



【日本整形外科学会教育研修単位】 単位種別：N / 必須分野：[11] / 日整会認定番号：17-2922-036

ランチョンセミナー整理券制

本学会のランチョンセミナーは整理券制です。

配布場所：パシフィコ横浜 ノース 1F 総合受付 / 配布日時：学会WEBサイトをご確認ください。

 MicroPort

HIP Luncheon Seminar

HIP

セミナー番号 ランチョンセミナー ②① LS21

会場 第10会場 (G414 + G415)

日程 / 時間 2/18(土) 11:45 ~ 12:45



座長

中田 活也 先生

独立行政法人 地域医療機能推進機構 大阪病院
院長補佐・整形外科主任部長・人工関節センター長

CSS研究会 代表世話人

Profemur®



演題

Curved-Short Stemの固定性と低侵襲THA

- Portalを使用したALSアプローチとステム選択 -

Curved-Short Stem stability and minimally invasive THA. -ALS approach with Portal and stem selection-

演者

藤井 英紀 先生 東京慈恵会医科大学 整形外科学講座 准教授

CSS研究会 世話人

抄録

人工股関節全置換術(THA)は、長期耐用性の向上がもたらされ、若年者にも適応が拡大された。また、筋腱関節包温存アプローチによる低侵襲性の工夫によって、早期回復や術後の脱臼リスク軽減がもたらされた。さらなる患者満足度向上の実現のためにインプラントやアプローチの改良が進められている。

1980年代から近年までにショートステムは世界で臨床使用され、アプローチにおける有用性や早期から中期の良好な臨床成績が報告されている。同時に長期的に慎重な経過観察が必要であると考えられる。

Profemur® Preserveステムは、2011年にModularタイプ、2015年にモノブロックタイプが欧米で臨床使用が開始され、本邦ではモノブロックタイプであるProfemur® Preserve Classicステムが2018年から使用開始された。

本ステムは、近位での荷重伝達を促進するために、トリプルテーパーと台形断面形状に加えて、細かい内外径ピッチによる骨幹端部でのFit & Fillを特徴としている。さらに短いステムデザイン、外側の肩の張り出しが少ないデザインによって、骨温存のみならず、梨状筋や共同腱付着部を温存しながら大腿骨髄腔にステムを誘導し設置することが可能となる。

私どもは、現在antero-lateral supine (ALS) アプローチを用いてTHAを行っており、症例に応じて筋腱関節包温存手技を行っている。本ステムは、アプローチの利点を損なわないデザインであり、初期固定性にも優れていると考えている。さらにPortalを併用したALS Pathアプローチを用いることで様々な優位点がある。今回、Profemur® Preserveステムの使用経験から、本ステムの選択理由、適応症例、ALS Pathアプローチにおける有用性、デザインコンセプトと実際の手術の相違点について調査し検討して解説する。



演題

ALSアプローチにおける

Curved short stemとPath systemを使用したTHAの可能性

演者

赤石 孝一 先生 医療法人 整友会 弘前記念病院 整形外科 診療部長

CSS研究会 世話人

抄録

ALSアプローチは、軟部組織の温存が有利なアプローチの一つである。また近年、術後創部の審美性を高めるBikini incisionが患者満足度向上のため注目されている。

手術後の肥厚性癒痕は長期に及ぶことがあり、皮膚の痛みや搔痒感により術後満足度の低下の懸念がある。当院で施行したTHAで通常の縦切開とBikini incisionとを比較した結果、術後の創部総面積および創部有症状率はBikini incisionの方が優れていた。

ALSアプローチにおけるBikini incisionは、大腿骨側の操作性は通常の縦皮切よりも操作性が良好である。Curved short stemを使用することでより大腿骨側の操作性とともに骨温存に有利となる。一方寛骨臼側の操作性は通常の縦皮切よりも低下する。寛骨臼側の操作性低下の原因として、Bikini incisionでの遠位側の皮膚の緊張および視認性低下が挙げられる。

Path systemは寛骨臼側の操作性をより高め、軟部組織温存条件下でのカップ設置に有用である。方法としてBikini incisionの約5~10cm遠位側に1cmの横皮切によるポータルを作成し寛骨臼操作を行う。

Bikini incision ALSアプローチにPathを併用する利点として、次のことが挙げられる。

1. 皮膚の緊張によるリーミング操作およびカップ設置操作が影響を受けにくく、Cup inclination の増加を防ぐことができる。2. 皮切位置の影響を受けにくい。3. ドリルおよびスクリュー挿入方向が制限されにくい。4. リーマーとリーマーシャフトの独特な接続形状により寛骨臼遠位側の温存された軟部組織の切開が不要である。5. 垂脱臼性股関節症における厳密な原臼位設置も対応しやすい。今回 Path system の有用性を紹介する。

【日本整形外科学会教育研修単位】 単位種別：N / 必須分野：[11] / 日整会認定番号：17-2922-036

ランチョンセミナー整理券制

本学会のランチョンセミナーは整理券制です。

配布場所：パシフィコ横浜ノース 1F 総合受付 / 配布日時：学会WEBサイトをご確認ください。